

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3270400694		
法人名	社会福祉法人 島根県社会福祉事業団		
事業所名	ハートフルおやま		
所在地	出雲市小山町456-1		
自己評価作成日	平成26年1月27日	評価結果市町村受理日	平成26年3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 ワイエム
所在地	島根県出雲市今市町650
訪問調査日	平成26年2月5日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

住宅地やコンビニ、大型店商店などが近隣にあり、利便性の良い地域に立地している。歳をとっても、認知症になっても持てる力を発揮して生き生きと生活し、家族・仲間・地域社会と入居前と変わらず、繋がりがながら暮らしていけるグループホームを「個人の尊厳が保たれ、その人らしい生活を」の理念のもと、目指している。その為に毎日の生活行為一つ一つを、各自の力や今までの生活歴に応じてやって頂く事を大切にしている。また利用者の方の思いを汲み取る努力とそれを叶える為にご家族やかかりつけ医との連携を図りながら、その方にとって最善のケアを皆で話し合い提供している。同一法人の特別養護老人ホームも隣接しており、様々な面で連携を図っている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ホームは、市街地で常に人や車が行き来する風景の中にあり、9人の利用者さん方は、職員と共に、近所の散歩や、食材、日用品などの買い物に日常的に街に出かける。開設以来約40年目を迎えた法人本体の特別養護老人ホームや、デイサービス、ケアマネジャーなどの利用のために近隣や団地の多くの人々も訪れたり、奉仕や協力関係などが確立されている。利用者さんは、それぞれに居場所があり、作業や趣味を会話をしながらゆったりと過ごしている。職員皆が、利用者さんの生活が豊かなものになるようなアイデアを出して、個性に応じた働きかけをしており、いきいきと働いている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し、介護理念の理解についての勉強会を行なった。その中で理念に沿ったケアについて周知した。	「…尊厳がたもたれ、その人らしい…」の理念の実践のために、センターシートや気づきシート、など認知症ケアの専門的視点をもって職員の資質向上を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年2回発行の地域向けの便りを近所へ利用者の方と手渡しで配っている。梨狩りで収穫した梨も日頃お世話になっている地域の方に利用者の方と配っている。地域の祭の誘いも頂き、参加した。	40年という、法人本体が地域とともに歩んだ福祉活動の中でグループホームも地域との強いつながりと支援者に護られている。挨拶を交わしたり、野菜などの差し入れや、ホームからのお礼など、地域とのおつきあいが継続されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市内の介護福祉士の養成学校や県立大学の実習を受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では報告だけでなく、様々な助言やアドバイスを委員の方にも求めて、実践に役立てている。他事業所や様々な情報提供もいただいている。	会議は、利用者家族、住民の代表などが、親身になって、忌憚のない意見交換がされており、管理者や計画作成担当者は、よりよい運営のために、出された意見を採用して、実践している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に運営推進会議(1回/2ヶ月)を開催し、情報交換を行なっている。また不定期に疑問点等市の担当者と連絡をとるようにしている。	高齢者福祉、障害者福祉の様々な事業をしている島根県社会福祉事業団としては、唯一の認知症グループホームだが、地域密着事業として、出雲市の担当職員とは、顔の見える関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	以前開催された園内研修において、身体拘束によって利用者へ与える弊害を理解し、拘束のないケアを実践しているが、より学びを深める機会をつくる必要がある。	職員は、法人本体の経営理念として、「…利用者の意向を尊重…個人の尊厳を保持…」が護られるよう研修やミーティングで、身体拘束について確認している。言葉による拘束でも、知らない内に人の心を傷つけることのないよう、気をつけていきたい。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	以前園内研修で学んで入るが、具体的な行為や不適切なケアについても学ぶ機会が必要である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修等を通して熟知しているが他の職員は制度に関する理解は十分とはいえない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	専門用語を避けて分かり易い説明を心掛けている。不明な点は特に重点的に説明し、理解、納得されたか確認しながら話しをすすめている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から意見や要望が言い易いような雰囲気作りに努め、面会時や電話でお話しを伺うようにしている。玄関に意見箱を設置している。	毎年行うホームの忘年会について、昨年は家族からの意見をアンケートなども利用して募り、例年とは違って、ホテルではない、ホームフロアで手作りのアットホームな忘年会を開催したところ、認知症の方を支える家族にとっても、和やかに満足のもののができた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事前アンケートなどで意見を聞き、全職員が参加する会議を年1～2回開催している。また日々のミーティングや月1回のケア会議でも、意見が言い易い雰囲気作りを行なっている。	管理者や計画作成担当者は、日ごろから、職員についても細やかな指導やサポートを行い、結果、ケアが職員の個性を發揮できる豊かなものになっている。職員は、利用者と暖かい関係を築いており、いきいきと働いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度や職員個々が目標設定する事でやりがいやモチベーションアップにつながっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人での研修、母体施設での園内研修、また外部の研修も参加し、復命や記録などで他の職員にも周知を図っている。資格取得についても情報提供を行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	出雲地域認知症連絡協議会の研究発表会などに参加し、他の事業所の取り組みを知る機会を設けたり、他事業所と交流を図り、情報交換を行ない、サービスの質の向上につとめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談の際にご本人の要望や生活歴をしっかりと伺い、言葉の奥にある思いを汲み取るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事業所見学時に丁寧にお話しを伺い、納得された上で入居申し込み書を書いていただくよう努めている。入居決定後もゆっくり話しを聞き、利用者の方を共に支える関係を築くよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	真摯な対応に心がけ、他のサービスが必要と思われるときは併設の特別養護老人ホームや居宅介護支援事業所などにも相談するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の今までの生活を尊重し、様々な経験や知識を教えてもらいながら、それを発揮する場面づくりをしている。料理や年中行事なども教えていただきながら協働で行なっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族も一緒にご本人を支えていくという事を互いの共通認識とし、お互いに相談しながらケアを行なっている。通院や外出についても協力いただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの生活歴を把握し、なじみの地域の商店なども利用しながら関係の継続を行なっている。電話や葉書のやり取りも支援している。	家族は、遠方在住の方もいるが、ご本人はホーム周辺の住民が多く、希望があれば、いつでも懐かしい場所に行くことができる。家族とも電話で話せるように細やかに配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の自発的な関わりは難しくなっているため、職員が仲介しながら会話を深めたり、家事活動なども協力しあえる場面作りを行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や支援をしたケースはないが、母体の特別養護老人ホームへ入所された方には利用者さんと共に顔を見にいっている。退居された御家族がその後も差し入れを下さったり、立ち寄ってくださるケースもある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話などから本人の意向や要望を汲み取りケース記録に残し、思いが反映するようプランの作成に努めている。意思表示が難しい方は表情やご家族からの聞き取り、生活歴から推測し検討している。	面会に訪れた家族の中には、「認知症が進んだため本人の話がわからなくなった。」と話すことがある。認知症が進行すると、思いや意向を言葉で表現することが出来なくなることが多い。職員は、表情やふとしたつぶやきなど様々な方法で、思いをくみ取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談、ご家族からの聞き取りなどでこれまでの生活歴についても聞くようにしている。入居後もお話の中で情報を深め、職員間でも周知し本人の理解に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者お一人お一人の言動をケース記録に残す事で、状態の把握に努めている。日々の変化についてもミーティングで話し合い、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者はご本人や御家族から生活に対する意向を聞き、居室担当を中心とする職員からの気づきを取り入れた介護計画を作成している。毎月のケア会議で実施状況の振り返りを行なっている。	計画は、利用者、家族からの話に加えて、認知症ケアの専門的見地からの検討も行い、職員全員で話し合って作られる。健康状態や、状況などに応じて変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃から介護計画書や本人の思いを意識したケース記録を残すよう心掛けている。日々の記録でもプランの評価を行ない、それをもとにケア会議で話し合い、プランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて通院や、送迎等の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域住民の方や地域包括支援センターの方に参加していただくことで地域の情報を知ることが出来、地域の行事にも参加させていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医や希望の医療機関に受診できるよう家族とも連携をとっている。通院困難な方は往診依頼をし、家族が同行困難な際は職員が同行し、適切な医療を受けられるよう支援している。	利用者さんや家族と話し合いながら、病状に合う、医療機関につなげている。受診や、内服薬など管理が行き届いている。体調の変化に気を付け、早めの対応に心がけている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームに看護師の配置はないが、母体施設の看護師に急変時の相談や協力を得られる体制を整えている。また状態変化時はかかりつけ医に連絡し、指示を仰ぐようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供書を作成し医療機関に渡し、特に留意して欲しい点は直接伝えるようにしている。担当医や看護師から様子を聞き、回復状況等の把握に努め、スムーズな退院ができるようしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの体制はとっておらず、重度化した場合や医療行為が必要になった際の対応については入居前の説明や体調変化時に都度相談している。できるだけご本人や家族の希望に添えるようかかりつけ医との連携をとっている。	法人本体が、看取りの万全な体制をとっていることから、終末期には隣接する特別養護老人ホームでの看取りへと移行する選択もできる。利用者さんや家族は、そのことで安心して将来を考えることができる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	母体施設で開催される救急法の研修会や急変時の対応についての外部研修にも参加している。日頃から看護師の資格を持つ職員から対応方法について教えてもらうようにしている。AEDも設置している。定期的な訓練にははいたっていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間、日中それぞれを想定した避難訓練を定期的実施している。防災会議や合同避難訓練では地域の消防団や近隣住民の方にも参加、協力していただいている。	年に2回ある避難訓練のうち1回は、ホーム独自で行う。利用者さんも参加しており、消防団や近隣の6戸の住民が協力する。個室は、掃出し窓で庭に続いており、避難路は安全である。備蓄食料なども完備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみの中にも目上の方に対して失礼のない言葉かけと対応を心掛けている。それぞれの人格を尊重した対応と排泄や入浴時の羞恥心についても配慮している。	ホームの職員の会話や、利用者さんへの話しかけは、穏やかで、敬意に満ちており、同席していて、気持ちよかった。職員はイスに腰掛けて同じ目線で利用者さんに話しかけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶の時間の飲み物や、着替えの衣類など日常の中で、自己決定できる場面づくりに心がけている。思いを表出できる雰囲気づくりにも努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の睡眠状況や体調に合わせて、ご本人の思いを尊重した対応をしている。希望時には外出をしたり、柔軟な対応に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の衣類はご本人と相談して決め、ご本人の嗜好にあったお洒落を楽しんでいただいている。美容院への付き添いや一緒に服を選んで買い物したり、お化粧品をするなど個々にあった支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、味付け、片付けといった一連の工程をご利用者と一緒に行なっている。個々の力が発揮できるような働きかけや買い物にも一緒に行き食材選びもしている。	料理なんか何年もしていませんよ、と家族が話していたが、包丁を持ってもらうと、すいすい手が動いて、大根の皮がむけるといふ光景がみられる。職員は無理のないところで、その持てる力を引き出して生き生きとした活動につなげている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取量を把握しながら、毎月の体重測定も実施し、栄養状態の把握を行なっている。摂取量が少ない方には補助食品なども提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	誤嚥性肺炎の予防も含めて口腔ケアの大切さを理解し、適切な口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握して排泄介助を行なっている。立位がとられなくなった方も2名介助でトイレでの座位排泄を継続している。	個別の排泄支援は、業務の中に位置づけられており、途切れることなく継続されている。歩いてトイレに行って排泄するというケアに取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常生活場面で散歩等体を動かし運動する機会を提供すると共に、水分摂取をすすめ、自然排便を促している。食べ物も食物繊維を多く摂取していただいたり、乳製品の摂取もすすめている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間はある程度限定されてしまうが、毎日入浴できる体制を整えている。柚子湯など季節感を味わう入浴も取り入れ、ご本人のタイミングで誘い楽しんでいただけるような支援をしている。	浴室からは歌声が聞こえ、利用者さんは、十分にお風呂を楽しんでいる。入浴を嫌がる利用者さんもいるが、職員はいろいろと知恵を凝らして、気持ちの良い入浴ができるように取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	前夜の睡眠時間やその日の活動内容を考慮して休息がとれるよう支援している。各居室だけでなく、ホールでも落ち着いて休息ができるような場所を作る配慮をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の効能・副作用について記載してある説明書をファイルに閉じてまとめてすぐに取り出せるところに保管してある。処方変更の際はケース記録やノートで周知を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみや得意な事、趣味などの把握に努め、生活歴なども考慮し、それに取りくめるよう支援している。また展示や掲示などによって発表の場も設けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物の希望には近所のスーパー等買い物支援を行なっている。また季節の外出やご本人の思いに沿った場への外出も計画している。ご家族へも外出の際の協力を得ている。天気の良い日には近所への散歩を日行的に行なっている。	園庭の散歩や近くのスーパーへの買い物など、日常的にホームから出かけている。街の喧騒を感じたり、出先で人々と交わす挨拶など、ホームに閉じこもることのない生活を支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各自お財布に小額のお金を所持してもらい、外出の際に使用してもらっている。実際の支払は職員が代行している場合も、ご本人の目の前で説明、納得の元で行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族を気にかけておられる際は電話をし、直接お話ししてもらうよう支援している。知人との手紙のやりとりを勧めたり、手紙の代読も行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地のよい空間づくりに心がけ、花や掲示物、置き物等で、五感で季節を感じられるよう配慮している。	職員は、ばたばた動くことなく、穏やかに行動し、話すときにはイスに座ってゆったりと利用者さんに向き合っている。居心地の良い空間とは、職員のそのようなたたくまいなのだと感じた。ホールのしつらは、明るく清潔で壁の装飾も目を楽しませている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファや和室など、共用空間の中でも個々が安らげる場ができるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた、なじみのものの持込をお願いしている。入居後も家族やご本人と相談しながら写真を飾ったり、居心地のよい環境作りに配慮している。	利用者さん自ら案内してくださった個室は、ご自分でも気に入っているのが、自慢げに披露される言動からうかがわれた。職員は、利用者さんと一緒になって、住みやすいお部屋を演出している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており、安全な移動に配慮して、手摺りの設置も行なった。個々の状態に応じ、安全に生活できるよう配慮している。		